

令和7年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 令和7年度東京都立富士高等学校・附属中学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
 (2) 事務局の構成 庶務・広報部主任（事務局長） 経営企画室長 計2名
 (3) 内部委員の構成
 校長 副校長（中・高） 経営企画室長 教務情報部主任 進路学力部主任 生徒支援部主任
 高校学年主任代表 中学学年主任代表 庶務・広報部主任（事務局兼） 計10名
 (4) 協議委員の構成
 P T A会長、同窓会会長、近隣教育委員会統括指導主事、近隣自治会長、有識者〔大学教授等〕（3）、
 消防署長 計8名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 第1回 令和7年6月10日（火） 内部委員8名、運営委員5名
 授業視察、運営委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
 令和6年度の学校経営計画達成状況と令和7年度の学校経営計画の説明、意見交換
 第2回 令和7年11月20日（木） 内部委員10名、運営委員8名
 授業視察、本校の現状と課題（成果現状報告と課題・方策）
 運営委員からの教育活動に対する意見、学校評価アンケート質問項目の内容検討、協議
 第3回 令和8年2月27日（金） 内部委員10名、運営委員6名
 授業視察、本校の現状と課題（これまでの成果現状分析、次年度に向けての課題・方策）
 学校評価アンケートの集計結果及び分析結果報告を見てご意見を紙面で提出してもらった。
 (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 第1回 令和7年11月20日（木） 内部委員4名、評価委員3名
 学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果について
 今年度の学校評価の実施に向けた検討
 第2回 令和8年2月27日（金） 内部委員4名、評価委員2名
 アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理 評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 「学校生活への理解」「学校への意欲」「探究・国際教育」等の観点で実施する。
 (2) アンケートの実施時期・対象・規模
- | | | | |
|------------|---------|---------|----------|
| ・12月 全校生徒 | 対象：897人 | 回収：789人 | 回収率：88% |
| ・12月 保護者全員 | 対象：897人 | 回収：584人 | 回収率：65% |
| ・12月 地域住民 | 対象：20人 | 回収：16人 | 回収率：80% |
| ・12月 教職員 | 対象：60人 | 回収：60人 | 回収率：100% |
- (3) 主な評価項目
 ・学校生活、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、部活動、国際理解、施設・設備などの評価項目を学校実態に合わせて適宜設定する。
 (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 ・全体としては、「学校生活」「授業」「学力向上」「習熟度」「学習指導」「生活指導」「特別活動」「探究活動」「理数教育」「運動部活動」「文化部活動」についての肯定的な回答の割合が高くなっている。
 ・上記の内容は、令和6年度の傾向と同じようなものを示しているが、「運動部活動」「文化部活動」については令和6年度より肯定的解答の割合が向上している。
 (5) 評価結果の分析・考察
 ・生徒の学校に対する満足度は高い状況だが、自習室や図書館など設備に対する満足度が低い傾向にある。自習環境の整備が必要である。
 ・アンケートについては数字の高低にこだわりすぎるのではなく、どのように生かしていくのが重要。満足度についても、進学指導以外の部分の授業の魅力を向上させたい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価への反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒、保護者、教員の自由意見について、集計の困難さを考えても入れた方がよい。
- ・運営委員との意見交換により、課題に対する具体的な対応策について助言を得ることができた。SSHについては2期目の指定に向けて、より改善していく必要がある。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・ホームページにおいて、進学実績や運動系部活動の活躍を今まで以上に盛り込む。
- ・学校評価アンケート結果の還元
 - ① 自由意見欄を入れる。
 - ② 学校評価アンケートの分析をどのように対応し、改善につなげるのかを検討する。
 - ③ 地域住民へのアンケートの実施において本校での取り組み（進学実績など）をどのように知ってもらおうかの検討。
- ・保護者や外部への、学校の取り組みの宣伝。
- ・生徒の息が抜ける場面を作りながら、精神的なケアを充実させる。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画への反映）

（1）学校運営

- ・学校ホームページにおいて、進路実績や部活動の活躍についての更新量を増やす。進路の実績については確定版のみでなく、速報版も出していく。
- ・Cラーニングにおいて保護者との連絡や行事などの様子を情報発信し、情報の共有化を推進。
- ・生徒指導について保護者との連携をはかる。生徒・保護者・教員の話し合いを深め、より良い校則へと改善する。
- ・授業力向上に向けた校内研修会を年3回実施する。

（2）学習指導

- ・進学指導面以外での授業の魅力を上向きさせる。生徒の主体的な学びの機会を増やす。
- ・授業力向上研修を引き続き維持・継続し教員の授業力向上を図る。また、授業評価アンケートの結果を教科・分掌での分析をもとに学校全体で改善を図り教科主任会で共有する。
- ・課題研究の指導力向上を目指す富士未来学研修、富士未来学推進委員会を実施。次年度も維持・継続し教員の授業力向上を図る。

（3）特別活動

- ・本校の伝統である文武両道の校風を継承し、生徒の主体的な活動を支援する。
- ・グランドデザインに基づく探究発表会や富士三大行事（体育祭、文化祭、合唱祭）の運営を教員の実行委員会で検討し、生徒の実行委員会により企画・運営が生徒主体になるよう推進する。

（4）生活指導

- ・制服の着用服装、ルールの違反者がいる場合はその場で指導をする。今後は生徒会・PTAとも連携しながら時代情勢を鑑みたルール整備と周知が課題。
- ・避難訓練の見直し。様々な災害を想定し計画的に行い、生徒の防災意識を高めるとともに、セーフティ教室を通して、薬物乱用防止、情報モラル教育、交通教育など地域と連携した取組を維持・推進する。
- ・三大行事に向けて、実行委員及び執行部の活動を充実させる。
- ・校内研修（年3回）を充実させる。いじめに対しては、組織的に毅然とした対応が取れるように、いじめ防止基本方針の徹底をする。
- ・通級指導の充実を図る。担当教員だけでなく学校として取組む姿勢になるよう教員への周知を図る。

（5）進路指導

- ・中高一貫教育校として、難関大学合格を含めた進学実績を目指す。
- ・模試や模試分析を活用し、データに基づき、客観的・実証的な分析を行い、生徒の学力把握、学力向上の推進、分析会など、校内の組織的な体制に改善・推進する。現状の分析会の維持に取組む。
- ・自らの進路希望を高く維持できる意識づけをさせながら、自信をもたせる指導をする。ホームルームや学年集会の活用。学年と進路学力部で連携する。
- ・ホームページでの、進路関連項目の充実を図る。
- ・進路通信や面談指導など、本校が独自に作成し、評価の高い資料を今後も活用していく。

（6）健康・安全

- ・安全衛生委員会等、産業医との面談や研修、ライフ・ワーク・バランスをより推進して、教職員の

- メンタルヘルス体制を維持する。長時間労働の改善に向けて管理職からの声掛けや業務改善を行う。
- ・風通しの良い職場環境を目指す。

6 「学校が良くなった」と考える運営委員の割合

(1) 運営委員回答人数 8人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	3					

そう思う：63% 多少そう思う：37%

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

(1) 実績 なし

(2) 成果 なし

8 その他